

産業医が事業場側に対して、健康の要素に関する働きかけを行った。その結果、事業場内の担当者（内部資源）の合意を得て、OSHMS 構築と健康の要素の取り込みが並行して行われた。OHSAS18001 の認証に向けて産業医は事業場内で総務部門等のライン管理の下、OSHMS の健康の要素文書の作成、内部監査員と健康の要素の実行責任者としての役割を果たしていた。本分担研究班としては産業医に対して健康の要素の文書作成に関する助言、また事業場側からの要望に応える形で認証前の OSHMS の内部監査への参加と協力を行った。今後の課題として、OSHMS の継続的運用と他事業場への水平展開が考えられた。

（事業場 4）

- ・ 確立した既存の安全衛生管理体制をもとに OSHMS を導入し、JISHA 方式の認定を既に受けていた。しかし実際に運用されている OSHMS の内容は安全の要素に限局された傾向が明らかに強く、健康の要素の運用は事業場内に存在する別の規定の中で行われてきた。産業医は既に OSHMS 研修の受講歴があったが、事業場側からの健康の要素に関する積極的な参画の要請が無かった。本研究期間内では OSHMS で運用する健康の要素に対する必要性の認識にとどまった。研究班としては OSHMS への健康の要素取り組みに関する助言とモデル文書の提供を行った。今後の課題としては OSHMS に健康の要素を導入する課題意識が実際の展開につながるかという点がある。

（事業場 5）

- ・ 既存の安全衛生管理体制の強化、対外的に CSR のひとつの側面としての実行、競合他社に対する自社の企業価値の向上、海外工場への展開を目的に OSHMS 導入の検討が担当者レベルで開始された。それに伴い、現行の安全衛生管理体制を OSHMS に再編する方法が検討されていた。同時に赴任した産業医は OSHMS 研修の受講歴があり、OSHMS 内での健康の要素の取り込みと実行に関する参画を要請されていた。しかし結果として経営層による企業組織体制の再編の決定がなされ、OSHMS 導入自体が延期される結果となった。本分担研究班としては、担当者と産業医に対して、OSHMS 構築と健康の要素を取り込みに関する助言を多少、行うにとどまった。企業内部の組織再編が落ち着いた後に OSHMS の運用と構築、健康の要素の取り込みが本格的に取り上げられるかが課題である。

2. 以上の内容を個別の要点に応じて、表にしてまとめ、課題等の整理をした結果を以下に示す。

1) 企業の属性

対象事業場の業種はすべて精密機械等の製造業であったが、そのうちひとつが外資系企業である。従業員規模の分布は表 1 に示す。

【表 1】 導入支援の対象事業場の従業員規模

事業場番号	1	2	3	4	5
従業員規模	1100 名	1300 名	2700 名	3000 名	1500 名

2) OSHMS の導入状況について

表 2 に示す通りに認定・認証予定のものも含めると 2 事業場が JISHA 方式を選択し、さらに 2 事業場が OHSAS18001 を選択し、1 事業場については未定となった。1 事業場が米国本社からの要求事項による導入、顧客からの要求による導入が 1 事業場、自主的判断による導入が 3 事業場にみられた。

【表 2】 各事業場における OSHMS の導入状況

事業場番号	1	2	3	4	5
導入の背景	事業場毎で自主的導入	米国本社の要求事項	顧客の要求自主的導入	本社からの要求	全社的に自主的導入
OSHMS の導入状況	導入済み	導入済み	導入済み	導入済み	未実施
ISO14001 の導入	導入済み	導入済み	導入済み	導入済み	導入済み
方針における健康の文言	○	○	○	○	－ (策定中)
選択した OSHMS の規格	JISHA 方式 (取得予定)	OHSAS18001	OHSAS18001 (取得予定)	JISHA 方式	未定
OSHMS のグローバル展開	－	○	－	－	－
OSHMS の今後の課題	事業場から 全社への展開	ダブル スタANDARD	継続的な 運用	健康要素の 運用の遅れ	OSHMS 構築 運用開始

3) OSHMS 導入前後の安全衛生管理体制と産業保健活動と産業医の役割

既に安全衛生管理体制が確立している事業場が 4 事業場あり、事業場の再編に伴いそれを見直している事業場があった。表 3 に示す通り 3 事業場において産業医が OSHMS 文書の作成を担当し、内部監査に参加している事業場が 3 事業場あった。さらに 1 事業場においてライン管理下で産業医が機能している事業場がみられた。

【表 3】該当事業場における産業医に関する情報

事業所番号	1	2	3	4	5
OSHMS 研修の 受講歴	○	○	○	○	○
OSHMS で 果たす役割	○	○	○	○	○
ライン管理下に 位置づけ	—	—	○	○	—
OSHMS の内部 監査への参加	○	○	○	—	—

4) OSHMS で運用される健康の要素と提供したモデル文書の活用状況

表 4 に示す通りに運用予定のものも含めた健康の要素には、健康診断、復職支援（メンタルヘルス関連も含む）、過重労働対策、血液病原体対策、救急箱管理、化学物質のリスクアセスメントが挙げられた。対象事業場のうち、提供したモデル文書を活用したのは 4 事業場であった。

【表 4】対象事業場で OSHMS の中で運用中ないし運用予定の健康の要素

事業所番号	1	2	3	4	5
健康診断	○	○†	○¶	○†	—
復職支援 (メンタルを含む)	○¶	—	○¶	○†	—
過重労働	○	○¶	○¶	○†	—
血液病原体対策	—	○	—	—	—
救急箱管理	○	○	—	—	—
化学物質の RA	○	—	—	—	—

¶ 産業医大モデル文書を活用し導入済み † 産業医大モデル文書を活用し導入予定

3. その他の要望に応じた協力について

1) OSHMS 導入に関する具体的なコンサルティング

表5に示すように、本分担研究班は3事業場の産業医に対して健康の要素を組み込むための具体的な導入支援を行うことができた。支援の内容としては、産業医が行う各事業場への説明などの事業場内でのコミュニケーションに関する支援とモデル文書の改訂に関する助言等を含む OSHMS 文書作成に関する支援を行った。また1事業場については研究班が OSHMS 内部監査に参加し支援を行った

【表5】 OSHMS と健康の要素の導入支援結果のまとめ

OSHMS への健康の要素の導入とコンサルティング結果					
事業所番号	1	2	3	4	5
導入結果	○	○	○	—	—
コンサルティング	○	○	○	△	△

2) 今後のに向けた課題等を以下に要約する。

- (1) 上記結果より運用されている OSHMS に新たに健康の要素を組み込むことは可能であったと考える。その要因として以下のものが考えられる。
 - ① 産業医が OSHMS で一定の機能を果たすこと
 - ② モデル文書の事業場に対応した形への改訂
 - ③ OSHMS 方針の中に健康の文言が組み込まれること
 - ④ コンサルティングが実際に行われること
 - ⑤ 内部監査への健康の要素の専門家（産業医・外部認証機関）の参加
- (2) 健康の要素を含んだ OSHMS を実現するための課題として以下のものが挙げられる。
 - ① 経営層を含む事業場とのコミュニケーション
 - ② モデル文書の改訂
 - ③ 一般化に向けた活動
- (3) 開発したモデル文書の有効性の検証
提供したモデル文書を基本とした文書改訂が健康の要素を取り込む要因であることから、モデル文書は有効であると考えられた。また有効であったとの直接的な印象を該当事業場の担当者と産業医よりも聴取できた。

4. 産業医科大学における OSHMS 関連文書の公開

産業医科大学で平成 16 年度から構築運用している OSHMS 関連文書を学内の承認プロセスを経て、平成 19 年 1 月に産業医科大学の持つインターネットホームページの一部として公開を行った。公開した内容は産業保健専門家の登録があるメーリングリストを通じて、ないし、本研究班の発表会において、広く、伝達する努力を行った。

E 考察

本研究で健康と安全のバランスの良い OSHMS を導入の実現するにあたって、これまで示唆されてきた課題に加えて、経営層への説明を含む事業場内でコミュニケーションの問題があることが推測された。これは健康の要素を含んだ OSHMS の実現のための要因として、OSHMS の構築運用の上で最も大切な経営層の方針文書の中に“健康”に関する文言が含まれる必要性と関連している。

OSHMS 方針は担当者レベルではなく、あくまでも意思決定を行う経営層により実施されるものである。そのために健康の要素を実現するには、経営層に対して健康の要素の専門家である産業医の説明等を経て、賛同を得ることが不可欠である。また OSHMS の運用および準備の過程にあたっては、事業場内スタッフの OSHMS そのものの理解も必要である。このことより健康の要素を含んだ OSHMS の実現にかかる産業医の事業場内でのコミュニケーションも重要である。

健康要素を含む OSHMS の導入自体に対する課題を踏まえると産業医、事業場担当者等の内部資源として、OSHMS に関わる「ヒトに係る側面」も重要であることが分かる。今回、実態調査からはじまった OSHMS の導入支援について、今回ごく限られた事業場での経験をより多くの企業に展開して行く際には、以下のような課題や努力が必要であると考えられる。

1. OSHMS に対する専門性を研鑽する研修機会の提供と定着化
2. 企業の OSHMS 導入に対する環境整備
3. OSHMS に健康の要素を組み込むこととその重要性の啓発
4. 開発した OSHMS モデル文書の継続的な改善と普及
5. OSHMS に健康の要素を導入する場合の全体的なコンサルティング機関の存在

更に今回得られたツールや導入支援のノウハウを更に広く企業全般に広げてゆくためには、今後展開する道筋としては次の 3 つがあると考えられる。

1. 事業場単位から企業全体への展開

特定の優れた人材や環境の整った安全衛生・産業保健活動をリードする事業場から本社や他の事業場へと展開してゆくケース

2. 業種・業界への展開

特定の優れた人材と環境、経営層の理解をもつ企業から同業他社へと展開してゆくケース

3. 大規模事業場から中小規模事業場への展開

今回得られた知見はそのまま中小企業に展開はできないと考えられるが、今後も同様の知見が蓄積されてゆくことで、安全衛生や産業保健上の課題が多いとされる中小規模事業場に展開

が広がってゆく必要がある。

今回得られた結果や考察の限界として、本研究で選択した事業場においては、いずれも安全衛生管理体制が確立していること、また産業医の OSHMS 研修の受講歴があること、業種等を考慮すると、選択バイアスが生じている可能性が否定できない。しかし先に述べたようなより一般的に展開してゆく努力を続けることは本研究及び分担研究班としての課題を解決することに有効であることは間違いないと考えられる。

F 結語

健康の要素を OSHMS に適切に組み込むにあたっては、健康の専門家としての産業医が研鑽の上、支援を受けることで質的向上を果たす。また運用する事業場に対しては継続的な啓発、環境整備が引き続き必要である。それらの事例の蓄積と公表、経験の共有が今後の OSHMS と健康の要素の展開に必要であると考えられた。

G 参考文献

1. ILO の労働安全衛生マネジメントシステムに関するガイドライン，中央労働災害防止協会，2001年12月
2. 小木和孝・原邦夫，ILO 産業安全保健マネジメントシステムガイドライン，2005年2月

H 使用ツール

OSHMS 導入状況観察・支援ケース報告書
(最終的に報告書では個人名や企業名は削除)

1. 属性

(ア) 企業名 :

(イ) 担当修練医氏名 :

(ウ) 業種 :

(エ) 従業員規模 :

(オ) 業態 :

(カ) 資本 : 外資・内資

(キ) 産業医氏名 :

(ク) 産業医卒期 :

(ケ) 産業医の担当範囲 :

(コ) その他 :

2. OSHMS 導入と安全衛生・産業保健活動

(ア) OSHMS 導入以前の状況

① 安全衛生活動内容 :

② 安全衛生管理体制 :

③ 産業保健活動内容 :

④ 産業保健要素の取り扱い :

(イ) OSHMS 導入後の状況

- ① 導入規格・認定：
- ② 安全衛生活動内容：
- ③ 安全衛生管理体制：
- ④ 産業保健活動内容：
- ⑤ 産業保健要素の取り扱い：
- ⑥ 効果測定：
- ⑦ 導入による効果：

3. OSHMS 導入と産業医の役割・機能

- ① 産業医の OSHMS 導入前の状態の役割：
- ② 産業医の OSHMS の素養：
- ③ 産業医の OSHMS 導入への関与：
- ④ 産業医の OSHMS 導入後の MS における役割：

4. OSHMS 導入支援の実際

(ア) 導入のタイプ

- ① 新規・産業保健要素の導入・その他：

(イ) 導入の経緯：

(ウ) モデル文書の活用状況

- ① 産業保健要素：
- ② 実施要領：
- ③ 様式：

(エ) モデル文書の効果と課題

① 効果：

② 課題：

(オ) 導入支援の経緯：

① 発端：

② 要望：

1. 当初：

2. 経過の中での依頼等：

(カ) 新たに特定した必要な産業保健要素

① あり・なし

② 具体的に：

(キ) その他：

5. 訪問の会議記録

(ア) 1回目

① 日時：

② 対応担当者：

③ 議事概要：

④ 依頼を受けた事項：

⑤ 課題：

⑥ 次回以降の作業計画

(イ) 2回目

(ウ) 3回目

(エ) その他

6. 考察

(ア) 効果

(イ) 導入の問題

(ウ) 今後に役立つ点

(エ) 今後の必要な事項

(オ) その他

I 成果

1. 産業医科大学における労働安全衛生マネジメントシステムの運用の実際の公開
 - 1) 平成 19 年 1 月 17 日から“労働安全衛生マネジメントシステムの実践例”として産業医科大学インターネットホームページにおいて使用している文書体系の公表を開始。
 - 2) [HTTP://WWW.UOEH-U.AC.JP/JP/MEDICAL/OSHMS/INDEX.HTML](http://www.uoeh-u.ac.jp/jp/medical/oshms/index.html)
2. 第 80 回日本産業衛生学会における発表予定（平成 19 年 4 月 25 日）
 - 1) 登録番号：10165（発表形式：口頭発表）
 - 2) テーマ：労働安全衛生マネジメントシステムに対する健康の要素の導入の試み(TRIAL TO INSTALL HEALTH ASPECTS IN OCCUPATIONAL SAFETY AND HEALTH MANAGEMENT SYSTEM)
 - 3) 発表予定者：黒木弘明ら（産業医科大学産業医実務研修センター）

平成 18 年度研究班発表会プログラム

厚生労働科学研究費補助金・労働安全衛生総合研究事業
研究課題「労働安全衛生マネジメントシステムでの労働衛生上のリスク対応に
必要なアセスメントツール等の開発」

平成 18 年度 研究班発表会プログラム

1. 日 時：平成 19 年 2 月 3 日（土） 13：00～17：00
2. 場 所：産業医科大学 ラマツィーニ 小ホール
3. 演 題
 - 1) 13:00～13:20：「研究の目的」森 晃爾
(産業医科大学副学長 産業医実務研修センター所長)
 - 2) 13:20～13:50：「化学的健康障害要因に関するリスクアセスメント」
分担研究者：武林 亨（慶応義塾大学 公衆衛生学教授）
研究協力者：梶原 隆芳（エコミナルビジネスエキスパート（株）産業医）
研究協力者：梶木 繁之（産業医実務研修センター 助手）
研究協力者：佐々木 規夫（産業医実務研修センター 修練医）
 - 3) 13:50～14:20：「物理的要因に関するリスクアセスメント」
分担研究者：堀江 正知（産業生態科学研究所 産業保健管理学 教授）
研究協力者：筒井 隆夫（産業生態科学研究所 産業保健管理学 助教授）
研究協力者：川波 祥子（産業生態科学研究所 産業保健管理学 助手）
 - 4) 14:20～14:50：「生物学的要因に関するリスクアセスメント」
分担研究者：谷口 初美（産業医科大学 微生物学 教授）
研究協力者：大津 真弓（産業医実務研修センター 修練医）
- * 14:50～15:00：休憩
- 5) 15:00～15:30：「OSHMS に関する導入支援の実際」
分担研究者：亀田 高志（産業医実務研修センター 講師）
研究協力者：黒木 弘明（産業医実務研修センター 修練医）

6) 15:30～15:50：指定発言：外部監査機関監査員としてのコメント

コメンテーター：水野 斌

(テフ・ライアント・ジャパン (株) マネジメントシステム部 上級監査員)

7) 15:50～16:30：企業の産業医の立場としてコメント

研究協力者：岩田 全充 (トヨタ自動車 (株) 産業医)

研究協力者：廣田 直敷 (トヨタ自動車 (株) 産業医)

研究協力者：小林 祐一 (HOYA (株) 総括産業医)

研究協力者：小島 玲子 (古河電気工業 (株) 産業医)

研究協力者：潟山 千晶 (HOYA (株) 産業医)

研究協力者：永田 智久 (ファイザー (株) 産業医)

8) 16:30～17:00：「三ヵ年の総括」森 晃爾

(産業医科大学副学長 産業医実務研修センター所長)

以上